



発行所 東京薬科大学 学生新聞 八王子市堀之内 1432-1 電話0426(76)5111



自治会選挙終る

新執行委員長決定！

さる五月二十五、六日、おこなわれた執行委員正副委員長選挙の開票が二十七日おこなわれ、新しい執行委員会の首脳がきまってきた。

選挙結果

投票総数 1180

候補者	投票結果				
	信任	不信任	白	無	持ち帰り
稲垣 興一	997	136	36	2	9
佐藤 章二	996	136	36	3	9
鎌田 清美	1032	99	38	2	9

投票結果を見てわかるが、二千人の有権者中千人前後の支持率と低い結果となった。この低支持率の原因として、まず第一に投票率の低さがあげられる。これは東薬生の自治会への無関心もさることながら、選挙管理委員会の成立の遅れや、選挙管理委員会が手不足であったため宣伝活動が不十分であったのが大きく作用している。この結果、例年はG階ホールだけで投票所を開いていたのが今年は各学年ほとんどのクラスへ投票をおこなってもらいに行くという異常な事態となった。このことについて選挙管理委員長は次の様に「これは、投票率のアップを狙ったもの。一と述べた。だが、はたしてこれが本来の投票の姿かどうかは疑問である。第二の原因は、やはりなると言っても対立候補がいなかった為である。

当選した各氏に当選の喜びと、これからの抱負を述べてもらった。以下原文をそのまま載せた。

執行委員長 稲垣興一
選挙も無事に終りまして、ピラや演説会で発言しましたように、私は今年アンケート調査や自治会箱等を使いましてみなさんの意見や質問を取り入れたら、自治会ニュースの発行回数増加をしまして、執行委員会の活動をみなさん

に理解していただくよう努力していくつもりです。また今年度よりカリキュラムが変更されましたが、それが取組みしてくる教務問題にも取り組みなさんの要求も、入学制と交渉して、授業環境充実にも努力していくつもりです。ともかく一年間みなさんご協力のもとがんばっていきつたりです。でよろしくお願ひいたします。

副執行委員長 佐藤章一
この度の選挙に於いて、皆さん御協力ありがとうございました。立会演説会でも述べましたが、私は副執行委員長の鎌田清美さんと共に委員長の稲垣興一君を助け、三人協力しあっていたと思います。

私が執行委員長に就任してからこの一年間を振り返ってみると、長いようで短い一年間でした。

そしてこの一年間を無事終える事ができたのも、ひとえに関係諸氏の暖かい援助があったからで、この紙面をお借りしまして、お礼申し上げます。

さて、これから私が執行委員長という大任を終えて一番感じた事を述べたいと思います。

昨年度は、分科問題という大きな問題がありました。この分科問題において、我々学生ははいくつかの要求を実現したわけですが、私は我々学生が学生の要求実現のために共通の要求の下に団結し、その要求実現のために努力した事が要因だと考えています。そして私は、このような大きな問題に陥らず、常日頃から学生の声を学生自治会に集結して、学生活動をしていけば、よりよい自治会運営ができるのではないかと感じました。

この分科問題においても当初は多くの学生が共通の要求を実現させるため一致団結していましたが、後期試験が近づいてきたせいもあるのか、徐々に活気が失われてしまいました。自治会運営が円滑に行なわれているとは言えません。

それでは、どのように学生の意見を集結すればよいのでしょうか。東薬の自治会には自治委員会と執行委員会という委員会があります。自治委員会とは、諮問機関です。学級大会などで話し合われた意見を持ち寄り、話し合われたことが学生の間で問題となつていくのかを見定める所です。そしてそれらの問題を解決するために、実際に活動するのが執行委員会です。

昨年の前期学生大会（7月）で自治委員会の問題が取り上げられ発足に向けて努力したにもかかわらず、各クラスの自治委員がなかなか決まらず発足したのは10月に入つてからでした。そして分科問題を抱え、当初は活発に活動していたのですが、1月頃には学級大会が開けず、全学生の意見を集結したとは言えないまま、自治委員会としての意見を出さざるを得ない、という状態になりました。これでは正常な自治委員会の活動とは言えないでしょう。

本年度の自治委員会も、すでに発足しました。しかし全クラスの自治委員が決つていくわけではなく、定数ギリギリで発足したような状態です。

私が昨年、1年間を通じて感じた事は、学生の意見をいかにして集結して、学生の要求実現のために一致団結していくか、これが現在の自治会において一番大事な事であるという事です。

自治会運営を活発に行つていくために、学級大会を開き全学生の意見を自治委員会に集約していく事こそ、これからの課題ではないでしょうか。

尚、自治会ニュース、アンケート調査の増加による一般学生の自治会の理解を深める事に加え、授業環境改善新カリキュラムにより生じた教務問題を大学側への交渉により解決していくつもりです。それでは今年一年よろしくお願ひいたします。

副執行委員長 鎌田清美
皆さん、選挙ではありがとうございました。皆さんの期待に添える様、副執行委員長として一年間頑張つていきたいと思います。執行委員長が学生の希望を実現するものであれば、副執行委員長は学生と執行委員会を結ぶものであると、私は理解して

以上のように、山積する諸問題をとりあげ学生の総意を実現するパイプラインの役目は果たそうと決意しているようだ。

だが、今回の選挙は投票率53パーセントと低く、東薬の学生の自治会への無関心はいなめない事実であり、そのなかでどれだけ学生をひきつけていくかが、今後の三氏の課題であろう。

この一年

旧執行委員長

山縣一昌彦